



「刻む会」のめざすこと

刻む会

たより



No. 1

91.6.17

長生炭鉱の「水非常」を

歴史に刻む会

宇部市鍋倉2-1-2(澄田方)

☎0836-21-8238

澄田 亀三郎

私は、在日朝鮮人の指紋押捺拒否者を支援している中で、五年前、「宇部地方史研究」一九七六年十二月号に載っている山口武信さんの論文により、長生炭鉱の「水非常」を知った。そして、「殉難者の碑」の「安らかに眠れ炭鉱の男たちよ」では、この事故で死亡した朝鮮人は安らかに眠れないし、後世の人々はこの事故の歴史的背景を知ることのできない、と思うようになった。

日本政府は、戦後一貫して、

朝鮮半島に対する植民地支配を心から謝罪する気持ちに欠けている。これは、ドイツなどとは違って、戦前、戦中の支配層がそのまま引き継がれているからだろうが、誠に残念なことである。

強制連行は、募集・官斡旋・徴用と、十五年戦争が激しくなるにつれて強化された。それは、「募集」だから強制連行ではない「などとは言えない実態であった、と私たちは認識している。だからこそ、

敗戦直後、証拠湮滅のために関係書類を焼却してしまったのではないか。今日、私たちが

調べたくても史料が乏しいのはそのためである。しかし、過去の足跡(歴史)を消すことなどできる筈がない。否、

私たちの国が再び他国を侵略したり、他民族を圧迫したりしないためには、過去から学ばなければならぬのである。それは、狭い意味での政治運動以前の問題であり、人間として当然なすべきことである。

私たちは、長生炭鉱「水非常」で死亡した人々の名と、何故かくも沢山の朝鮮人が今なお海底に眠っているのか、その歴史的経緯を、謝罪の意をこめて、歴史に刻みたい。ただそれだけである。これは、今、ここで私たち日本人が果たすべき義務と責任ではなからうか。

兄弟を同時に奪われた家族の悲しみを思いながら戸籍を調べると、村には兄と同じ年のところ(金)が一人残るだけだった。入れ歯の治療に向かう途中に会ったが、「もつ何も覚えていない。炭鉱で死んだよ、炭鉱で」

名簿の住所を訪ねると、一家は別の村に移り、ほかの家族が住んでいた。「炭鉱のこぼれ」から、いつか行くと帰って来た者がおるよ」と、またまた遠くの畑にいたお年寄りを呼んでくれた。

「集団渡航船乗客付記録」の氏名番号表を見ると、整理番号「二五八二」の弟と「二五八三」の兄の間に名前があった。

長生炭鉱と聞くと、崔さんは一瞬顔色を変えたが、すぐに穏やかな表情に戻って「兄弟のことは今でもよく思い出します。またいつかお会いしたい、口福田で同じ村の者同士集まっています。在日韓国人が死んでいたマッコリ(酒)を屋間いから飲んでた」と懐かしく話した。

兄弟と働き事故を免れた同郷の友



日本へ行ったのは「募集」が来た。集落に四人の割の当てが来た。あいたからだ、と崔さんは言っていて、崔さんらが指名された。かわからない。行きたい者はだ

「炭鉱ではこの倉庫に似た宿舎で暮らしていた」。崔さんの記憶は、鮮明だった。慶尚南道泗川郡昆陽面

危険な坑内で 1日2円30銭

たばこ代、食費を引かれると月三十円ぐらいになったが、体が悪かったり、仕事がつまんできかないと一銭も残らなかつた。外に出ても、崔さんは稼いだ金を全部韓国に送っていたという。坑内ではご飯とたくあんの

れもいなかたが、強制的で、行かない警察に引く張られると思つた。崔さんの記憶によると、炭鉱は午前四時と午後四時の二交代制で、一人あた

の探検の割の当てが二日四回。事故の朝、崔さんは仕事を終えて宿舎で眠っていた。兄弟は坑内にいた。十時ごろに起き

本島通産庁宇宙石炭支局編「山口炭田三百年史」によると、長生炭鉱を含む宇部炭田では、明治二十年ごろに海底探掘が始まった。浅く危険な箇所が多いせいか水没事故が絶えず、各鉱で百人、二百人が死んだ記録がある。長生炭鉱のすぐそばの炭鉱でも大正十年に三十四人が犠牲になった。

韓国から帰りの、長生炭鉱跡を訪ねた。水没のため、事故後三日間も日波がたつてもまなかつたという周防灘は、穏やかだった。沖に二本、コンクリート下の坑跡が残り、海底に眠る犠牲者を思い起させる。崔さんらが過ごした木造の宿舎は屋根が落ち、雑草が青々と生い茂っている。当時の食堂のはがれかけたタイルの上には、一殉難者之碑」が建つ。



掲載者 三山 三九一二十四歳
三山 宗允 一十七歳
遺族 父・弥均
住所 慶尚南道泗川郡昆陽面
中項里五五二

朝日(1990.8.28) 一五

は朝鮮人ばかりだった。三ツ松 千佐子記者(おわり)



清算されない昭和

—長生炭鉱//水非常//の歴史的背景と「歴史に刻む」ことの意義—

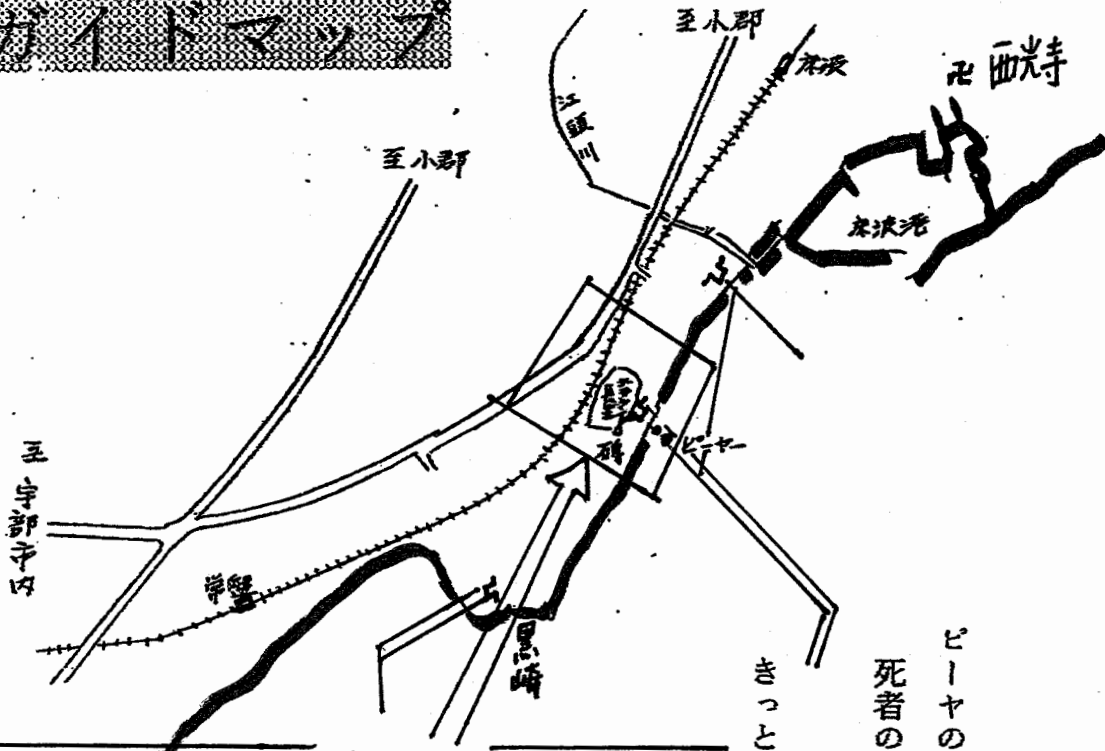
講師：林 えいだい 氏 (筑豊在住 ルポライター・強制連行に関する著書多数)

1991年

7月15日(月) 18:30~21:00

宇部市文化会館

ガイドマップ



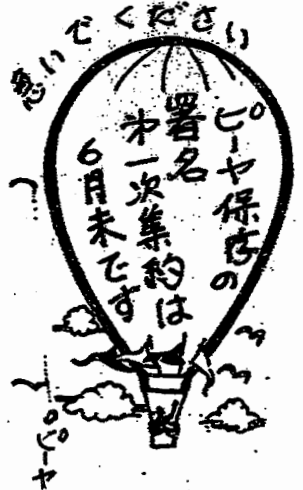
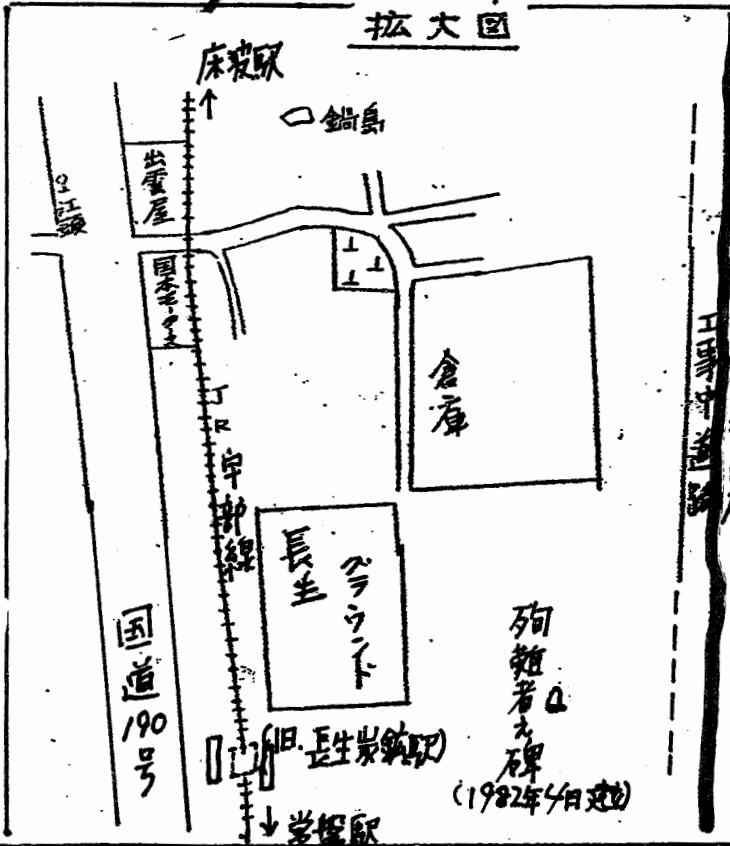
長生炭鉱跡に行ってみませんか
友達と 親子と みんなで

ビーヤの見える海底から

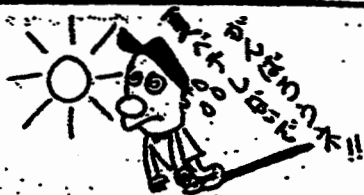
死者の悲しみが

無念の嘆きが

きくと聞こえてきます



長生炭鉱跡の現地学習会



8月10日(土) 13時 ときわ公園正面玄関集合

さきの例会でも提案がありました現地学習会を上記の通り開催します。詳細は事務局会議(7月22日夜7時半より於宇部教会澄田)で準備しますが、常磐公園内の石炭館をみて長生炭鉱跡に行き、霊位のある西光寺や、長生炭鉱とは直接関係ありませんが、1915年(大正4)の東見初炭鉱水没事故死者(235名)のお墓のある源山墓地を訪ねたりすることになるでしょう。

この日には、広島県府中市の中学校社会化部会の先生達13名も「宇部・筑豊への旅」の一環として参加されます。(当夜は宇部に泊、私たちとの交流集会を希望しておられます。)

皆さん奮ってご参加ください。また、この企画にとりいれて欲しいことがありましたら事務局(☎21-8238)までお知らせ下さい。なお、当日は常磐公園優待券をお忘れなく。自家用車歓迎。移動の際は車の相乗りをお願いします。

では、8月10日(土)にお会いしましょう。

①「長生炭鉱の「集団渡航鮮人有付記録」を読む」

布引 宏

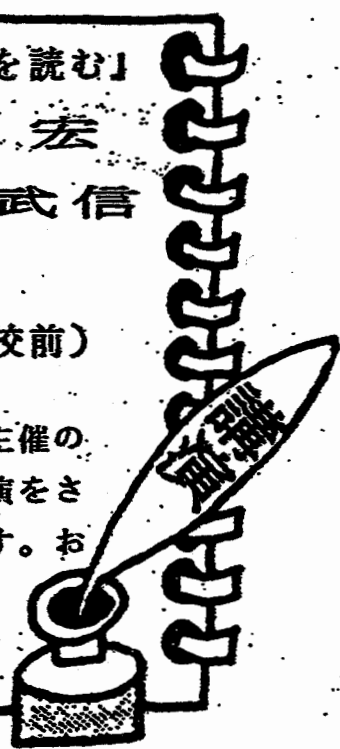
②「五十年目の長生炭鉱」 山口 武信

とき 7月28日(日) 13:30より

ところ 宇部市婦人センター(宇部女子高校前)

「刻む会」の会員のお二人が、宇部地方史研究会主催の「宇部地方史研究会平成三年度大会」で上記の講演をされます。入場無料で、誰が聴講してもよいそうです。お二人で約1時間半お話しになります。

皆様のご聴講をおすすめします。



第2回

朝鮮人・中国人 強制連行・強制労働を考える 全国交流集会

1991. 7. 27~28 兵庫県・西宮市



「朝鮮国独立」の文字が残る西宮市甲陽園の地下工場跡

主催 第2回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える
全国交流集会実行委員会

☆ 山口武信、横野宏明、澄田
亀三郎の三名が出席されます。
山口さんは、第1日目の分
科会の「炭鉱・鉱山・軍需工
場と強制連行」で「長生炭鉱
の『水非常』について」発表
され、トンボ帰りされる予定
です。



<7月27日(土)>

全体集会 (13:00~16:00)

(於/西宮勤労会館 TEL 0798-34-1682)

- ① あいさつ 実行委員会
- ② 3分間スピーチ I
- ③ 記念講演 歴史家 朴慶植氏
- ④ 3分間スピーチ II

分科会 I (16:00~17:30) (於/西宮勤労会館)

食事(弁当) (17:30~18:00)

分科会 II (18:00~20:00) (於/西宮勤労会館)

※ 神戸学生青年センターへ移動
(JR西宮駅から六甲道駅下車 北東へ徒歩10分)

交流会 (21:00~)
(於/神戸学生青年センター TEL 078-851-2760)

<7月28日(日)>

フィールドワーク (西宮市甲陽園の地下工場跡)

- ① 9:00 ② 10:30 集合は、—
甲陽園小学校 (阪急電車甲陽園駅南東徒歩3分)
(①は神戸学生青年センターの宿泊者のみ)

「アリランのうた(朴海南製作)」特別上映会
(10:00~11:50 一回のみ)
(於/甲陽園小学校)

全体集会 (12:00~13:00) (於/甲陽園小学校)

※分科会の内容(Ⅰ、Ⅱ共通)

- ① 入門講座—朝鮮人・中国人「強制連行」問題とは何か、地域での調査活動をどのように進めるか
- ② 「花岡操起事件」にアジア民衆との連帯をさぐる—日本人のみた「花岡」、朝鮮人のみた「花岡」
- ③ 土木建設工事と朝鮮人・中国人労働者—強制連行期および強制連行期以前の鉄道・ダム・灌漑・トンネル・道路・河川改修工事など
- ④ 炭鉱・鉱山・軍需工場と強制連行 (セハリン在住朝鮮人問題も含む)
- ⑤ 地下軍需施設建設工事と強制連行
- ⑥ 軍人・軍属・慰安婦 (朝鮮人・台湾人慰安婦問題も含む)
- ⑦ 教育実践—地域の在日朝鮮人・中国人の歴史を学校教育・社会教育でどのように取り上げるか—
- ⑧ ビデオ(映像記録)—自作のビデオ作品を持ち寄り、批評しあう
- ⑨ 地域史の見直し—トンネル跡などの保存・犠牲者慰霊碑の建立、記念館の建設、郷土史の書きかえ等
- ⑩ 戦争動員・強制連行・強制労働と戦後補償

※賛同団体数 76